

氏名	柏 まり
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第118号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位論文の題目	子どもの健全な育ちを保障する育児ソーシャル・サポート尺度の開発 —保育施設を拠点にした孤育で解消の可能性—
学位審査委員会	主査 佐藤 和順 副査 中村 光 副査 村社 卓

学位論文内容の要旨

本学位論文は、子育て家庭が抱える否定的育児感情を緩和し、子育ての孤立化(以下、孤育で)の解消に向けた支援内容を明らかにするものである。具体的には、保育施設に焦点をあて、子どもの健全な育ちを保障する育児ソーシャル・サポート尺度の開発に関する研究を行ったものである。

男女共同参画社会の実現に向けて女性の社会進出が進む一方で、母親の育児負担、育児不安や孤育で等、否定的な育児感情や閉鎖的な親子関係が、児童虐待や過保護・過干渉といった子どもの育ちに影響している。子どもの健全な育ちを保障するためには、親子や夫婦関係を基盤とした子育て支援のあり方や子育て家庭と社会の繋がりをはかることが課題とされている。

保育施設は、地域の子育て支援拠点である。地域との関わりが希薄化する子育て家庭にとって、保育施設が持つ専門知識や保育技術、地域との繋がり、子どもが健やかに育ち、安心して子育てするための一助となる。

子育て支援に関する測定尺度の研究は、子育ての主体を母親と位置づけ、育児不安や育児感情を測定する尺度開発が主流であり、父親・母親の双方を対象とした子育て支援ニーズに関する測定尺度の検討は十分ではない。そのため、母親の否定的育児感情の程度は測定できても、育児負担を軽減するには至っていないのが実情である。また、母親にとって配偶者の育児支援の有効性や必要性が確認されていても、父親の育児参加に関する実現可能な支援内容についての検討が十分なされていないと言えない。

そこで本研究では、第一に、父親・母親の双方を対象とする子育て家庭に特化したソーシャル・サポートを「育児ソーシャル・サポート」と定義し、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の開発を目的とする。第二に、開発された育児ソーシャ

ル・サポート尺度を用いて、父親・母親の子育て意識と育児ソーシャル・サポートとの関連性について明らかにする。本研究は、子どもの健全な育ちを保障する育児ソーシャル・サポートの実現を目指して、社会と子育て家庭の関係を繋ぐ育児ソーシャル・サポートの可能性について検証するものである。

第1章では、子育て家庭の現状と課題について、関連する研究動向を整理した。具体的には、第一に、ワーク・ライフ・バランスを観点として、未就学の子どもを持つ父親・母親の子育ての実情から、子育ての困難性、母親への育児負担の偏り、父親の育児参加の困難性等の課題を顕在化した。第二に、ソーシャル・サポートを観点として先行研究を概観し、子育て支援に特化した「育児ソーシャル・サポート」について検討した。

第2章では、父親・母親の子育て意識と育児ソーシャル・サポートとの関連性から、子育て家庭が求める育児ソーシャル・サポートについて検証した。研究の結果、父親・母親は、配偶者からの精神的サポートと同年代の子どもや親との交流できる居場所があることが、否定的育児感情を緩和させる一因となることが分かった。

第3章では、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度を開発し、その因子構造と信頼性を検討した。全国の未就学の子どもを持つ父親と母親、1,133名を対象として質問紙調査を実施。研究の結果、「保育の専門家による育児ヘルプ」因子、「精神的サポート」因子、「居場所」因子、「短時間の託児」因子、「身近な人による育児ヘルプ」因子の5因子、計22項目からなる「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度」が開発された。分析によって得られた各因子についてCronbachの α 係数を算出したところ、作成された尺度には一定の信頼性が備わっていることが確認された。本研究において作成された保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度は、未就学の乳幼児を有する親の育児支援ニーズを測定するに相応しいものであると考えられる。

第4章では、子育て家庭と社会とを繋ぐ保育施設の役割について明らかにした。具体的には、第一に、第3章で開発された、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度を用いて、子どもの育ちに影響を与える3つの観点に着目し、育児ソーシャル・サポートとの関連について明らかにした。子どもの育ちに影響を与える3つの観点は、①育児感情、②親子関係、③夫婦関係である。第二に、保育施設の中でも幼稚園児を持つ父親・母親に着目し、支援ニーズの特徴を把握した。具体的には、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートは、父親・母親への育児感情を健全化し、親子や夫婦関係といった家族関係を良好に保つことが把握された。

第5章では、本研究における一連の研究成果として得られた知見を概観し、保育施設を拠点にした孤育て解消の可能性について考察した。特に、精神的サポートが育児ソーシャル・サポートにおいて最も重要視すべき支援項目として示唆された。今後、保育施設には子育てにおける夫婦関係の大切さを伝えると共に、良好な家族関係の媒介となる支援を模索することが求められる。

主業績

No.1	
論文題目	育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性—幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして—
著者名	柏 まり 佐藤和順
発表誌名	保育学研究, 56, 2018 (採択決定)

副業績

No.1	
論文題目	保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の開発
著者名	柏 まり 岩佐和典 佐藤和順
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要, 23(1), 33-39, 2016

関連業績

No.1	
論文題目	保育者のワーク・ライフ・バランスが保育の評価に与える影響
著者名	佐藤和順 熊野道子 柏 まり 田中亨胤
発表誌名	保育学研究, 52(2), 243-254, 2014
No.2	
論文題目	具体的な行動例示による教師の行動変容に関する研究—「積極的なかかわり」を視点として—
著者名	柏 まり 佐藤和順
発表誌名	乳幼児教育学研究, 26, 25-36, 2017
No.3	
論文題目	保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートの可能性
著者名	柏 まり 佐藤和順
発表誌名	家庭教育研究, 22, 39-49, 2017

論文審査結果の要旨

本論文は、子どもの健全な育ちを保障する育児ソーシャル・サポートの実現を目指して、社会と子育て家庭の関係を繋ぐ新たな子育て支援の可能性を検証するものである。具体的には、育児ソーシャル・サポート尺度の開発を通して保育施設を拠点にした子育ての孤立化（以下、孤育て）の解消の可能性について検討を行ったものである。

第1章では、ワーク・ライフ・バランスを観点として、子育て家庭の現状と課題について関連する研究動向を整理し、就学前の子どもを持つ母親への育児負担の偏りに伴う課題を顕在化した。併せて、地域の子育て支援拠点である保育施設に着目した育児ソーシャル・サポートの可能性について十分に検討されていないことを指摘した。第2章では、父親・母親が求める育児ソーシャル・サポートについて検討した。調査から父親・母親共に配偶者からの精神的サポート及び子どもと親同士が交流できる居場所があることが、否定的育児感情を緩和させることが示唆された。第3章では、孤育て解消に向けた保育施設の有用性について検討を行うために、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度を開発し、その因子構造と信頼性について検討した。結果、「保育の専門家による育児ヘルプ」因子、「精神的サポート」因子、「居場所」因子、「短時間の託児」因子、「身近な人による育児ヘルプ」因子の5因子、計22項目からなる「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度」が開発され、一定の信頼性が備わっていることが確認された。第4章では、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度を用いて、子どもの育ちに影響を与える要因を検討した。特に配偶者からの精神的サポートは、父親の子どもへの積極的なかわり意識との関連が認められた。保育施設の有効な活用は、父親・母親の育児感情を健全化し、親子や夫婦関係といった家族関係を良好に保つことが確認された。第5章では、本論文における一連の研究成果を概観し、孤育て解消に向けた新しい知見を提供した。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（保健福祉学）の学位論文として価値あるものと認める。